



更科源蔵(さらしなげんぞう)  
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動が続けた。  
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



『北海道市町村名の起源(そのII)』  
1959年5月刊(右)



『北海道郷土暦』  
1955年12月刊(左)

『豆風土記』  
朝日新聞北海道版  
1954年12月22日  
「雪道」

『豆地誌』  
朝日新聞北海道版  
1957年3月9日  
「和寒(わっさむ)」

『豆風土記』  
朝日新聞北海道版  
1954年12月22日  
「雪道」

『豆地誌』  
朝日新聞北海道版  
1957年3月9日  
「和寒(わっさむ)」

## 一本の筆で...

太平洋戦争後の北海道で「二本の箸で飯を喰うのはそこいらじゅうにいるが、一本の筆で飯を喰っているのは更科だけだ」ということがまことしやかに語られています。現在でも、詩人で生活できるのはわずかで、戦後の日本はみんなが貧しかった時代、文筆だけで生活するのは厳しかったことは想像に難くありません。

更科は、北海道の風物や地誌、動物や植物、アイヌ文化に関することにも筆を進めていました。本稿第26回で紹介した『北海道繪本』(1949(昭和24)年8月刊)は、更科の文に、義兄弟で版画家・川上澄生の挿絵を添えて北海道の風物を書いたもので、出版社を替えて発行されるほど好評でした。このシリーズは、その後「続」が1976(昭和51)年6月、「続々」が1978(昭和53)年4月に、それぞれ挿絵となる版画家の作品を変えて発行されています。

北海道にこだわったテーマでは、このほかに朝日新聞北海道版に掲載された「豆風土記」があります。これは1954(昭和29)年9月1日から1955(昭和30)年8月31日までの358回連載されました。また「豆地誌」は、1955年9月1日から1958(昭和33)年3月21日まで706回連載されています。

「郷土資料シリーズ」は、札幌中央放送局放送部(NHK)の内部資料(非売品)として1955年12月から作られました。更科は同シリーズのうち、第7号「北海道の花(春)」(1956(昭和31)年5月・第11号「アイヌの楽器」・第16号「北海道の災害史」・第20号「北海道のアイヌ」・第22号「北海道市町村名の起源(そのI)」から第25号「北海道市町村名の起源(そのIV)」(1960(昭和35)年2月)まで執筆しています。

『北海道郷土暦』(1955年12月刊)は、札幌中央放送局放送部の同名のラジオ放送が視聴者に好評であったことから、更科が監修と原稿執筆をして、同局が発行しています。

更科は、依頼があった原稿の筆耕料で生活をしていました。しかし、その大半は、仲間たちとアイヌ文化や北海道各地の郷土誌の取材に行く費用などになって消えていった、と言われています。



## 図書館だより

中央2丁目4番1号  
☎(よいほんいろ) 482-1616

### ☆特別展示『みんなの夏休みおすすめ本2014』

「平成26年度版北海道青少年のための200冊」第60回青少年読書感想文全国コンクール課題図書の中から、図書館所蔵の図書を展示しています。読書感想文や夏の読書に、子どもから大人まで、ぜひご利用ください。

▼期間/8月31日(日)まで  
▼場所/特集展示コーナー

### ☆図書館用バッグのご持参を

「借りた本がカバンに入り切らなくて：何か袋ありませんか？」と聞かれることがよくあります。お手持ちのエコバッグなどを、図書館用バッグとして活用してみたいかがでしょうか。

▽今月の休館日

4日(月)・11日(月)・18日(月)・25日(月)

※お盆の間も開館しています。どうぞご利用ください。

## 新刊案内

- 「急に熱が出た」と言いだす女の本音」 絵音/著
  - 「北海道ツーリングパーフェクトガイド」 小原 信好/編
  - 「テキヤはどこからやってくるのか？」 厚 香苗/著
  - 「科学の霞」 長谷川英祐/著
  - 「はじめて！かんたん！布の帽子」 中島 有希/著
  - 「100歳のファイナダー・世本恒子」 東京新聞事業局/編
  - 「海うそ」 梨木 香歩/著
  - 「避雷針の夏」 榎木 理宇/著
  - 「コロボックル絵物語」 有川 浩/著
  - 「ピヨピヨはじめてのキャンプ」 工藤ノリコ/作
- たくさんさんの新刊が皆さんをお待ちしています！

## おすすめの新聞

「また作って！」って言われるひんやりおやつ113  
主婦の友社/編

ひんやり&ぶるん♪見た目にも涼しげなおやつが113品！ゼリー、ムース、パバロア、シャーベット…。どれも冷蔵庫や冷凍室で冷やし固めるだけだから、とっても簡単！毎日のおやつやおもてなしにも大活躍!!

## EMC通信

～川湯の森から～



山頂からのパノラマを楽しんでみては

今月は、親子でも祖父も、祖母とでも、グループを組んで登山を楽しめるコースをご紹介します。町内から

## 世代が交じっても楽しめる登山コース

歩道(小清水側)と登山道(東藻琴側)、両方をつなぐロングトレイルコースの3本。いずれも、スタート地点の8合目まで車で上がれます。ロングトレイルコースは約5kmになりますが、遊歩道は片道約2km、登山道は片道約1km。遊歩道・登山道は1時間程度で登れるのです。

藻琴山は歴史的にも興味深いところ。正徳2(1712)年に発行された、日本初の百科事典ともいわれる「和漢三才図説」という書物の中に「薬力嶽」という名で既に登場しています。先住民アイヌの人たちの間にも「トートクシペ」というアイヌ語名で伝説が残っています。もしかししたら、自由研究のヒントが見つかるかもしれませんよ。

出発前には、EMCで情報入手をお忘れなく！

## 屋外でも屋内でも楽しもう！

時間を気にせず、ゆっくり体験してみてください。

- ▶ガイドウォーク随時開催！  
スタッフの解説を聞きながら森の中を歩けば、発見があるかも。
- ▶クラフトコーナーで世界に一つだけの作品を作ろう！  
材料は用意してありますが、自然素材集めから始めるのもおススメ。
- ▶折り紙で遊ぼう！  
北海道の野生動物を折ったり、アイヌ文様の切り絵に挑戦してみよう。
- ▶じっくり読書！  
図書コーナーでは貸し出しもOK。気になる本を見つけてみては？



親子で工作に挑戦

川湯エコミュージアムセンター(EMC) ☎483-4100 URL [http://www6.marimo.or.jp/k\\_emc/](http://www6.marimo.or.jp/k_emc/)  
8月は8:00～17:00開館(無休) 8月2日(土)～17日(日)は開館時間を19:00まで延長!